

CL季刊誌講読所感

C. S.



手術をうける

2020/10/08

右手で酸素マスクを上げると

「起きた」執刀医の声が聞こえます。

「終わりましたよ～」

「終わりましたよ～」看護師さんたちの声が続きます。

執刀医が時刻を尋ねると

「4時前です」と看護師さん。

5時間も経ってる。つい今しがた手術室に入ったばかりなのに。

今年6月定期検診を受けました。

16年前から診て頂いている先生ですが、いつもと様子が違います。今から細胞診をすると説明がありました。

『悪性なのだろうか？』

『悪性だとしても、良性だとしても、その時、その時、次になすべきことをするだけ。私にできるのはそれだけ』と早くも検査中に結論が出てしまいました。悪性ならどうしようかななどと1秒も悩みませんでした。CLのお陰です。

会計も終わり帰ろうと向きを変えると、床に盲導犬が寝そべっていました。休憩中だからと許可をもらったので、撫でたり、会話したり、めいっぱい触れ合うと仲間と認めてもらえたらしく、私の手をペロペロなめてくれました。なんて良い日なのでしょう。

盲導犬とお別れして廊下を進むと異動前にとても良くして下さった女性の職員さんとぼったり会えて、これまでのお礼を伝えたり雑談をしたりできました。今日はなんて良いことが続くのでしょうか。

家の近くでは、やや親しい犬が散歩中で向こうから歩いて来ました。そうタイミング良く会えるワンちゃんではありません。良いことは続くばかりです。

帰宅すると、6時間お留守番していたうちの猫が穏やかに眠っています。何事もなく良かった。

その日、定期検診を受けながら、私はひとりの女性のことを考えていました。SNSで知り合ったLさんですが同じ病気で半年前に手術を受けていました。Lさんの闘病に私は無関心過ぎました。そのLさんと、今、SNSでやり取りがしたい。同病相憐れむ。

Lさんに応答して欲しいという目的のためSNSでフォロワーさんたちに「ただいま」と呟いてみました。その呟きをLさんに気付いてもらえる確率はかなり低いはずですが。なのに2分後「おかえりなさい」とLさんからのメンションがありました。今、1番、時間を共有したかったLさんです。今日

の細胞診のことは、初めから触れないつもりでしたから、共通の話題を繰り返しやり取りさせて頂きました。事実は何て素敵なプレゼントをくださるのでしょうか。

翌日『昨日は事実からステキなプレゼントを沢山頂いた』と思い返しました。

定期検診に留まらず細胞診まで進んだことを悪く受け止めていたけれども、悪いところが見つかったのは良いことなのかもしれないと気づき始めました。

定期検診から3ヶ月半経ちました。早期発見で良かったです。入院と手術も53年前の盲腸の時のほうがよっぽど大変でした。

CL季刊誌2019年春号「脊椎狭窄痛が教えてくれたこと」の中でレイノルズ先生が『激痛は初めての人に会って、小さなプレゼントをする機会になりました』と書いて下さったのを思い出しました。退院の日、お掃除の係の方へメッセージを残すことにしました。3行だけお礼の簡単なメモをトイレに置きました。次に入院することがあるなら簡単なお礼のカードを持参することにします。

10/11

今朝、季刊誌夏の号を読ませて頂きました。

入院に伴う雑用に追われ、夏の号を読ませて頂いたのは五回位でした。

ようやく時間に余裕ができ、読み方のことは分からない漢字を漢和辞典で調べました。

『はつらつ』でした。澁刺←この字でした。

道を歩いていたら、知らないおじいさんから


「奥さんは、姿勢がいいね～」と声をかけて頂いたことがあります。

清潔な身なりで、顔をあげ、前を向き歩く、そういう人が理想です。

躍動する若い女性三題—三人の若い女性。読むだけでワクワクします。

カッコ良く生きていると歩くだけで、社会貢献になるのですね。

お陰様で朝から、爽やかです。(岩手県大船渡市)

 [目次へ戻る](#)